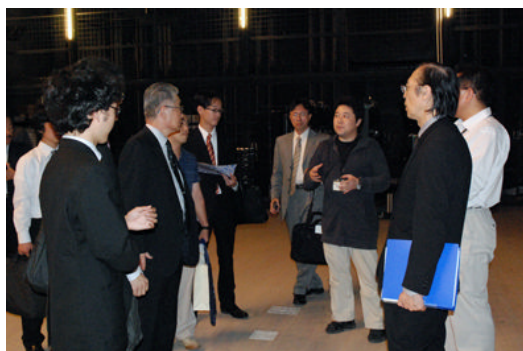


- 1 事業名 とどけ歌声！わたしたちの未来に！
大 船 渡 第 九 コ ン サ ー ト
社団法人日本クラシック音楽事業協会「心の復興音楽基金」参加事業
- 2 実施日 平成23年12月16日(金) 16:00～17:30
- 3 会場 リアスホール（大船渡市民文化会館）
- 4 主催 学校法人東北文化学園大学
- 5 後援 大船渡市教育委員会
- 6 協賛 アイリスオーヤマ株式会社
- 7 出演者
指揮 篠崎靖男
管弦楽 東北大学交響楽団
ソリスト
ソプラノ 梅村憲子
メゾソプラノ 高橋真美
テノール 五十嵐修(16日大船渡)
テノール 松尾英章(17日仙台)
バリトン 加藤隼人
合唱指導 五十嵐修 梅村憲子 高橋正典
練習ピアニスト 高橋麻子 高塚美奈子
合唱 東北文化学園混声合唱団
東北大学混声合唱団
大船渡市・仙台市民有志
- 8 演奏曲目
アンコール曲
バッハ：管弦楽組曲第3番ニ長調 BWV1068 第2楽章「G線上のアリア」
ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調作品125「合唱付」
ホルスト：組曲「惑星」より「木星（ジュピター）」※アカペラ
- 9 内容
本法人では、東日本大震災からの復興と新生への活動として、芸術文化を通じた取り組みを進めています。
この活動の一つとして、平成23年12月16日(金)、大船渡市の「リアスホール」で被災地の人々を見舞い、犠牲者を追悼するとともに、勇気をもって明日の東北を築き上げようという意志を高らかに歌い上げるために、ベートーヴェンの第九シンフォニー演奏会を開催しました。
これは被災地に音楽を届けたいという本法人の特任教授でロンドン在住のマエストロ篠崎靖男氏の熱き思いと本法人としても何かをしなければという願いが期せずして一致し実現したものです。
また、平成23年12月17日(土)東北文化学園大学国見キャンパス(仙台)で「大船渡第九コンサート」の帰還報告コンサートを実施しました。

<実施に向けて>

平成23年9月29日（木）、大船渡第九コンサート実施に係わる教職員30人がリアスホール（大船渡市民文化会館）の現地視察を行い、舞台設備、楽屋や受付の場所、使用できるリアスホールの施設設備の確認と利用打合せを行いました。



9月下旬から指揮者の篠崎靖男氏が12月上旬に来日するまでの間、東北文化学園混声合唱団の練習は週二回、ソリストの五十嵐修氏、梅村憲子氏を中心に、合唱指導の高橋正典氏、練習ピアニストの高橋麻子氏と高塚美奈子氏による手取り足取りの指導で行われました。

五十嵐氏は「参加している学生のほとんどは初めての第九合唱ですが、素晴らしい体験をしてほしいです。」と語り、指導に熱が入っていました。



平成23年12月12日、指揮者の篠崎氏が来日し、16日の「大船渡第九コンサート」に向けて、合唱とオーケストラの最終リハーサルが始まりました。



「大船渡第九コンサート」の事前広報活動は、大船渡高等学校、大船渡東高等学校、高田高等学校、大船渡市役所、大船渡市教育委員会及び記者クラブに訪問、地元団体への告知としてロータリークラブやライオンズクラブ、地元の商店や飲食店にチラシを配布しました。また、「リアスホール」近くの仮設住宅4か所約500世帯に個別訪問してご来場の案内を行いました。

大船渡中学の校庭にある仮設住宅に赴いた際、ご年配の男性が「コンサートかい？必ず見に行くよ。うちのかーちゃん最近引きこもりだけど、音楽好きだからきっと喜ぶよ。」と声を掛けてくれました。今回の震災は多くの人の心に傷を残しており、広報担当者は“引きこもり”という言葉に胸が詰まってしまいました。

「大船渡第九コンサート」の開催は、本法人ホームページによる情報提供以外に、河北新報社の新聞掲載、仙台のコンサート情報を提供するポータルサイト「仙台杜の響きコンサート」、さらにはアメリカの日系人向けの情報サイト「Cultural News」に篠崎靖男氏の活躍として報じられました。

<12月16日大船渡第九コンサート当日>

リアスホールでのコンサート当日は、仙台から楽器等の搬入し、本番、搬出を行うというハードスケジュールでした。舞台設営担当のスタッフは6:00、交響楽団は7:30、出演者と合唱団は8:30に学校を出発し、出演者及びスタッフ総勢約350人が大型バス8台等で大船渡市に移動しました。

13:00から、交響楽団はコンサートホールで、合唱団は各パートに分かれてサブリハーサル室で練習を開始し、本番に臨みました。

Beethoven Symphonie No.9

とどけ歌声！わたしたちの未来に！

大船渡 第九コンサート

主催：学校法人 東北文化学園大学 後援：大船渡市教育委員会 協賛：アイリスオーヤマ株式会社
後援者：日本クラシック音楽家協会「心の復興基金」参加事業

指揮 篠崎靖男 管弦楽 東北大学交響楽団

ソリスト 梅村恵子 高橋真美 五十嵐修 加藤隼人 松尾英章 (17日出席)

合唱 東北文化学園混声合唱団 東北大学混声合唱団 大船渡市民有志 仙台市民有志

12月16日(金) 16:00より
リアスホール(大船渡市民文化会館)

傳遞報告コンサート 12月17日(土) 16:00より 東北文化学園キャンパス
お問い合わせ 広報部 022-233-3330

東北文化学園大学 東北文化学園専門学校
〒985-8501 仙台市青葉区大船渡 1-1-1 TEL:022-233-3330
〒985-8501 仙台市青葉区大船渡 1-1-1 TEL:022-233-3330



コンサート開場（15：00）の1時間以上前から多くの大船渡市民の方々が訪れ、来場していただいた方は229人でした。

また、NHK盛岡放送局、岩手日報、東海新報、岩手朝日放送局の4社が取材を行い、「大船渡第九コンサート」の様子がテレビ、新聞で報道されました。



コンサート冒頭、小山昭夫本法人理事長は「どうかこの困難を一緒に乗り越えましょう。そのためには心の高揚が必要です。若い学生たちの歌声が被災地に届き、東北が少しでも前に進むよう祈ります。」と第九コンサート開催に込める思いを語りました。

第九コンサートに先立ち、バッハ作曲「G線上の



アリア」の静かな旋律の演奏後、震災の犠牲者への鎮魂と復興の希望を願い、出演者と来場者全員が黙とうを捧げました。続いて、ベートーヴェン作曲「交響曲第9番」第1、第2、第3楽章が篠崎氏の迫力あるダイナミックな指揮のもと奏でられ、第4楽章では交響楽団の演奏に合わせて合唱団が歌い、会場が歓喜の歌声に包まれました。

アンコールは篠崎氏作詞によるホルスト作曲「ジュピター」をアカペラで行い、多くの来場者の方々の涙を誘い、感慨深いコンサートとなりました。

合唱に大船渡市民有志として参加された大船渡市在住の大和田さんは大学生時代から 50 年の声楽のキャリアを持つ昭和 10 年生まれ。けせん「第九を歌う会」 in おおふなと実行委員会長を務め、地元の音楽文化振興をけん引している方です。

「コンサートを大船渡で開催してもらい私たちは元気付けられます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。地元人として報いるように精一杯歌いたいです。」と語ってくれました。



地元大船渡で合唱を趣味にするご婦人グループの方々は「わたしたちも第九を歌うのよ。第九は難しいと思うけど、学生さんたちは立派に歌っていました。素晴らしい合唱でした。」とコンサートを満喫していただいたようです。



大船渡市の地の森地区はほとんどが津波で壊滅し、同地区の少し離れた高台には 150 棟近くの応急仮設住宅が建っており、赤塚地区は建物がほとんどない状況です。それぞれの地区の近隣に住まいを持つ金野さんと桜岡さんは今でも不安感が付きまとうと言います。「家のすぐ隣は、がれきばかりでいつも不安に襲われています。今日は素晴らしい音楽を聴けて心が休まりました。本当によかった。若い子たちが真剣に歌っている顔を見ると涙が出た。本当に来てよかったです。」と涙をうつつらと浮かべ話してくれました。



東北文化学園混声合唱団は、大学看護学科と保育士を目指す専門学校こども未来科を中心に、有志を加えた総勢 120 人を超える学生で編成されました。しかし、学生たちのほとんどが第九を歌った経験がなく、合唱指導のソリスト、東北大学混声合唱団、岩手大学 OB のサポートのおかげでコンサート当日を迎えることができました。



練習当初、参加した学生は、非日常的なクラシック音楽を自ら歌うことに戸惑うばかりでしたが、ドイツ語原詞の歌唱指導を受け、自分たちの歌声が少しずつハーモニーを奏でる頃に楽しさを感じ始めたようです。

第九コンサート終了後、大学看護学科の阿部陽香さんは「これまで募



金程度のことしかできなかったが、コンサートに参加して自分も復興の役に立てていることを実感でき、充実感を得られました。被災された人の役に立ってほしいと心から思います。」と、専門学校こども未来科の宗像真奈美さんは「最初は歌で被災地支援なんてできないと思っていましたが、練習を重ねることで自分なりに少しずつ意味を見いだせることができました。この取り組みは後輩たちに引き継いでいきたいです。」と語ってくれました。

東北文化学園混声合唱団の大学・専門学校の学生は、達成感と充実感に満ちた顔で、新たな東北の未来に願いを込め、コンサートに会場された大船渡市民の方々に感謝の気持ちでお見送りして、「大船渡第九コンサート」は幕を閉じました。



<大船渡第九コンサートを終了して>

小山本法人理事長はコンサートを振り返り「東北にある学校にとって、これからの東北の復興と新生の原動力となる若い世代を教育することは大きな責務です。被災地に行き、現地で活動することはとても大切なこと。しかし、長い時間を要する復興には、それを担う人を鍛え、育むことも必要です。現代の若者にとって、おおよそ身近ではないクラシック音楽に自らが取り組み、その高みを目指すといった文化的教養を身につけることも、この土地をより豊かに再生することの一端を担い、その新生こそが本来の人の営みであります。」と語り、本法人は、東北地方の復興と新生の支援活動の一環として毎年行う予定です。

平成 24 年 11 月 11 日（日）は、東北宮城の地で第九コンサートを開催します。

経費報告（心の復興音楽基金支援対象分）

項 目	内 容	経 費 (円)
交通費	指 揮 者；篠崎靖男氏	
	羽田空港→仙台駅	14,550
	仙台空港→成田空港	19,800
	ソリスト；五十嵐修氏；東京駅⇄仙台駅	28,160
	ソリスト；梅村憲子氏；伊丹空港⇄仙台空港	28,000
	小 計	90,510
宿泊費	指 揮 者；篠崎靖男氏 ソリスト；五十嵐修氏 梅村憲子氏 加藤隼人氏	41,500
	小 計	41,500
楽器運搬費	4 tトラック借上げ分	98,700
	2 tトラック借上げ分	60,900
	小 計	159,600
合 計		291,610